

令和3年8月24日

市民文教委員会

創造都市・文化振興課

浜松版アーツカウンシル事業について

市民活動団体（文化芸術団体含む）等による新たな価値の創造や地域課題の解決など、創造的な活動を支援することを目指し、平成30年4月、（公財）浜松市文化振興財団内に、浜松版アーツカウンシルを設置した。

これまでの活動による取り組み状況と今後の展開を報告する。

1 活動状況

(1) 体制

R2～：チーフ（1名）、サブチーフ（1名）コーディネート担当（2名）

※令和2年度から、市民の創造的活動に寄り添い地域に密着した継続的な支援を展開していくため、外部人材によるディレクター体制から地域人材によるアドバイザー活用体制へと変更した。

(2) 調査・報告

活動状況等調査 R2:80件 R1:70件 H30:151件

アーツカウンシルネットワークミーティングへの参加（国内同種機関との連携・情報共有）

(3) 支援事業（令和元年度から）

支援セミナー	R2: 5回	R1: 5回
下記（5）に関連する申請前相談	R2:46件	R1:61件
下記（5）に関連する申請（提案）	R2:36件	R1:59件
下記（5）補助金採択事業伴走支援	R2:16件	R1:17件

(4) 情報発信

Web ページ 新規ユーザー数	R2:約17,500人	R1: 約11,300人	H30:約4,200人
フェイスブック更新	R2:84回	R1:118回	H30:90回
ニュースレターの発行	R2:4,000部×4回	R1: 4,000部×4回	H30: —

(5) 浜松市創造都市推進事業補助金事務（令和元年度から）

関係書類の受付確認、審査会運営、採択団体との連絡調整等

(6) その他

浜松市創造都市推進事業補助金制度、支援事業に対する提案
はままつ響きの創造プロジェクト プロジェクトチーム会議への参画

2 成果

(1) 活動状況調査を踏まえた支援セミナーの開催

浜松市内で文化活動・創造活動を行っている団体・個人の活動状況について幅広くヒアリング調査・分析を行い、課題や必要な支援策等について報告した。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け「どうすればよいかわからない」「活動を辞めようと思う」などの不安に対するアプローチを様々な角度から実践した。

- ①「コロナ禍における文化芸術活動について」
- ②「身近な事例から活動のヒントを探る」
- ③「ノーノーマルの時代に求められるニュータイプのリーダーシップとは？」
- ④「好きなことをやり抜く力」
- ⑤「地域に眠る観光資源をプロデュースしてみよう！～日本の絶景と世界の絶景～」

(2) 人的ネットワークの活用

- ・平成30年度、令和元年度においては、プログラムディレクターの人的ネットワークを活用し、市民の文化活動やイベント事業、中間支援や情報発信において質の高い外部の芸術家や文化人を登用した。地域活動の主体性を担保しつつ外部のアーティストを活用について研究を進めた。
- ・令和2年度は、これまでに蓄積された知見や知識を生かし、プログラムディレクター制からネットワーク活用体制へと移行し、補助金の審査員が、年間を通じ採択事業者に対しアドバイスを実施した。また、支援事業については、招へいした講師と参加者が直接意見交換でき、新たなつながりが創出されることを狙いとして、企画・運営した。

(3) 支援団体のステップアップ

浜松アーツ&クリエイションが伴走支援の効果として下記のような支援団体のステップアップが図られた。

- ・法人化（一般社団法人全日本校歌協会、株式会社あったか農場）
- ・支援事業にて制作した製品がグッドデザイン賞を受賞（株式会社出版のススメ研究会）
- ・本市以外の補助金を申請し採択（フィルハーモニックウィンズ浜松、天竜四季の森）

3 今後について

浜松市文化振興財団内に蓄積されたノウハウをベースに、市民の創造的活動に寄り添い、地域に密着した継続的な支援を展開していく。特に、新型コロナウイルスの影響により同じ地域で活動する団体どうしもつながりが希薄になってきていることを踏まえ、現在の支援団体のみならず、これまでに支援させていただいた団体や、ヒアリング調査に協力いただいた団体なども含めたネットワークを構築できるような運営を検討実施していく。